

豊川東部小

ピカピカ北校舎で新学期

改築事業完了 教室は木材ふんだん



完成したのが撮影時の北校舎と南校舎。豊川市東部小学校で

老朽化で改築工事が進められていた豊川市三谷原町の東部小学校（竹田寛校長）北校舎の完工式が23日、同校で行われた。一昨年8月に完成していた南校舎と合わせ、これで同校の改築事業が完了。児童らは4月からピカピカの新校舎で学校生活をスタートする。（由本裕貴）



木材を豊富に使った教室を視察する関係者ら一同

新たに完成した北校舎は鉄筋コンクリート3階建てで、延べ床面積は3065平方メートル。スギの列目板貼りなど、教室や廊下は木材をふんだんに使用しており、自然の香りが温かみを生む。

普通教室は1階に7室、2階に6室。市内の学校では初めて業務用エレベーターを設置し、1階と2階それぞれに給食配膳室を設けた。これで、給食当番の児童が給食や食器を持って階段を上り下りする負担がなくなつた。エレベーターは車いすなどの身障者にも活用される。

このほか、南校舎と同様に市内で初めてLED照明や複層ガラスも使用。手洗い場やトイレなど、児童の衛生に合わせた構造となつた。この日は内覧会も行われ、工事に関わった業者や地元関係者、市議ら約50人が参加した。

2013（平成25）年6月から行われていた工事により、子どもたちは仮設のプレハブ校舎で授業を受けてきた。4月からは真新しい教室で勉強に励む。竹田校長は「心の広い子どもたちを育てる意味で、これ以上ない素晴らしい校舎を建てていきたい。児童が通いたい、保護者が通わせたいと言ってくれるような学校を目指し、一層努力していきたい」と話した。

「まちを

全国30人の新若者たち

新城市の地域活性化について考える「とちほい村プロジェクト」に参加した